

■循環型マネジメント研修～RQ(関係知能)向上編

◆ねらい :環境の変化が早く、ヒトも事業も柔軟な対応が求められる時代です。管理職が一人で責任を背負い込むのではなく、「チーム全体で責任を分かち合い、支え合う」文化へシフトすること、スキルの習得以前に人間関係の質という基盤を整えることで、あらゆる施策が機能していきます。
本研修を通して他者との関係性の中でパフォーマンスを最大化させる「関係知能(RQ)」を高め、組織を自律型へ進化させ、不確実性への適応力を強化しましょう。

◆カリキュラム案

時間	内容	手法
AM	1. これからのマネジメント「感謝を組織のOSにする」 (1)これからのマネジメントは「管理・監視」から「関係の設計」へ (2)なぜ今、関係知能(RQ)なのか (3)「感謝」は負債の返済ではなく、未来への投資(OSの概念) (4)5つの関係知能RQとは	講義 個人ワーク
	2.「展開力」を身につける (1)展開力とは (2)ワーク:関係的アプリシエーション(貢献発見とリフレーミング) 当たり前の仕事の中に隠れた「誰かの貢献」を探し、 感謝の言葉でどう状況が「展開」するかをシミュレーションする。	講義 個人ワーク グループワーク
	3.「統合力」を身につける (1)統合力とは (2)ワーク:物語的コラージュ 過去の失敗事例などり出来事に対し、ストーリーの要素を組み合わせ、 複数の立場(営業・開発・顧客・管理職・新人等)から意味を出し合い、 一つの「共通の学び」へと統合するプロセスを体験する。	講義 個人ワーク グループワーク
PM	4.「関係持続力」を身につける (1)関係持続力とは (2)ワーク:対話的ホールド 対立するシナリオを用いたロールプレイ。感情的にならず、 相手との「繋がり(器)」を維持したまま対話を続けるトレーニングを 体験する	講義 個人ワーク グループワーク
	5.「自律的応答力」を身につける (1)自律的応答力とは (2)ワーク:応答的リフレキシビティ～境界を越える「私」の宣言 「自分の仕事ではないが、組織のために必要なこと」を特定し、 そこにどう「応答」するかを宣言する。 「自分はこう振る舞うのが最善か？」	講義 個人ワーク グループワーク
	6.「関係調整力」を身につける (1)関係調整力とは (2)ワーク:即応的リフレキシビティ 1日の自分の振る舞いが他者にどう影響したかを振り返り、 明日からの「自分のOS」を微調整する。 (3)全体統合ワーク:「小さな改善」への即時承認(フィードバック) 自発的行動を承認し、自走のスピードを加速させる。 感謝と責任が循環する組織に向けたコミットメントを共有する。	講義 個人ワーク グループワーク
	7. まとめ	